2019 JOHN KENDRICK CUP SPEECH CONTEST

第 26 回小・中学生英語スピーチコンテスト決勝大会開催報告

令和元年１２月８日（日） 13:00～16:30、和歌山城天守閣を臨む「あいあいセンター福祉交流館大ホール」を会場に、第２６回ジュン・ケンドリック杯小中学生英語スピーチコンテスト決勝大会を開催しました。ご来賓として、校友会本部より会計 梅澤昌嗣様、常任幹事 神谷昌明様にご臨席いただきました。また、大学より相川真佐夫先生、Michael Barr 先生を審査委員としてご派遣いただきました。児童生徒・保護者・指導者・校友会関係者・和歌山支部スタッフ等、合わせて約１５０名が見守る中、一次審査を通過し、本大会に臨んだ小学生 12 名と中学生 12 名の出場者は、日頃の英語学習の成果を全力で披露しました。小学生の部（レシテーション）では、本年度課題文 「Belling the cat」、「Cinderella」、 「George Washington and his Hatchet」 をそれぞれ発表しました。中学生の部（スピーチ）では、国際交流、環境問題、読書や部活動を通して学んだことや将来の夢など様々なテーマを設け、4 分以内で自分の意見や考えを発表しました。子どもたちが一生懸命に発表する姿や内容が聴衆の心に響き、たくさんの感動を与えてくれました。



このコンテストは、今から 228 年前の 1791 （寛政 3）年の春、ペリー来航の 62 年も前に、アメリカ合衆国国旗を掲げたレディ・ワシントン号（船長；ジョン・ケンドリック）とグレイス号 2 隻の帆船が、日本とアメリカとの通商・商業的な交流を求め、和歌山県串本町の紀伊大島を訪れたという日米交流の歴史的価値を讃え、語り継ぎ、広く多くの方に知っていただくことと、小・中学生が郷土和歌山に誇りを抱き、広く世界に目を向け、楽しんで英語を学んでもらいたいとの願いから、和歌山県田辺市のボランティアの手により 1992 年に始まりました。諸事情により 3 年間、休止となっていましたが、小学生を含む英語教育への関心が高まる中、再開への期待は大きく、2011 年より校友会和歌山支部が主催団体となり受け継いでいくこととなったものです。



本大会は、開会行事の後、小学生の部と中学生の部が行われ、審査のまとめを行う間は、小学生 3 名による「英語落語」が披露されました。審査は、相川真佐夫先生、Michael Barr 先生に加え、元県立高校教諭の上出 恵先生と県立高校 ALT のイレイン・ヤング先生の 4 名で、暗唱度・発音・アクセント・イントネーション・ジェスチャー・アイコンタクト・スピーチ内容等の観点から行っていただきました。スピーチ終了後、審査委員長の相川先生から成績発表をいただき、Michael先生からは、リラックスして力を発揮するための呼吸の仕方のアドバイスをいただきました。

審査の結果、小学生の部では、JOHN KENDRICK PRIZE（最優秀賞）；藤岡美悠さん（和歌山市

立藤戸台小学校５年)、ALFRED KENRICK PRIZE（優秀賞２位）；菅沼智子さん（和歌山市立高松小学校６年)、LADY WASHINGTON PRIZE（優秀賞３位）；藤本蘭さん（智辯学園和歌山小学校５年)、JOHN KENDRICK SPECIAL PRIZE（敢闘賞４位）；関明香里さん（和歌山市立藤戸台小学校５年）が入賞しました。中学生の部では、JOHN KENDRICK PRIZE；野上愛香さん（田辺市立近野中学校２年）／The Possibilities of English)、ALFRED KENRICK PRIZE；江川心生さん（和歌山大学教育学部附属中学校１年）／ The Microplastics)、LADY WASHINGTON PRIZE；河合隆志さん（九度山町立九度山中学校３年）／ Because we are all human)、JOHN KENDRICK SPECIAL PRIZE；宮澤里萌さん（智辯学園和歌山中学校１年）／ Oriental turtle dove）が入賞しました。



私たち和歌山支部は、母校建学の精神“PAX MUNDI PER LINGUAS ～言語を通じて世界の平和を～”を生かし広める社会貢献活動として、会員が力を合わせ楽しみながら本コンテストを開催し、未来を担っていく子どもたちを今後も応援していく所存でございます。

最後になりましたが、本コンテスト開催に際し、和歌山県教育委員会、和歌山日米協会、京都外国語大学・短期大学、京都外国語大学校友会本部からさまざまご協力・ご支援頂きましたことに心より感謝いたします。

和歌山支部長　三 角　雅 彦